

## 第2回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議

日 時：令和2年8月31日（月）15：00～  
場 所：札幌グランドホテル別館2階グランドホール

## 1 開 会

○事務局（小西まちづくり政策局長） ただいまより、第2回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議を開催させていただきます。

本日はご多忙の中ご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、私、札幌市まちづくり政策局長の小西でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、今日の会議でございますが、新型コロナ対策として十分にディスタンスを取ったレイアウトとさせていただいておりますことをご理解いただきたいと思います。

さて、本日の進め方でございますが、お手元の次第でございますとおおり、札幌市より昨年度の事業の実施状況や本年4月に変更させていただきました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要、今後のスケジュールのほか、現下の社会情勢等を踏まえましてさっぽろ圏の今後の方向性や、それに伴います新たな取組等につきまして説明をさせていただいた後、皆様と意見交換を行わせていただく予定でございます。

それでは、開催に当たり、札幌市長・秋元克広よりご挨拶を申し上げます。

○札幌市（秋元市長） 皆さん、こんにちは。大変お忙しい中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

また、今日は北海道からも佐々木地域振興監にオブザーバーとしてご出席をいただいております。ありがとうございます。

また、各振興局からもお越しをいただいているようでありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年3月に、今日お集まりの皆さん方と私ども札幌市、合わせて12市町村で「さっぽろ連携中枢都市圏」の形成をさせていただくことになりました。この都市圏は、約260万人という人口を抱える全国で最大規模の連携中枢都市圏となります。圏域を形成してから、1年余り経過したところでございますけれども、今日は、この1年間の取組などについてご報告をさせていただきながら、今後の取組について意見交換をさせていただければと思っております。

『住みたくなる』『投資したくなる』『選ばれる』さっぽろ圏域」を目指して、各市町村の取組、連携を密にして進めていきたいと思っております。

ご案内のとおり、少子高齢化、人口減少という時代の中で、どのように地域が生き生きと、活性化をし、発展をしていくかということでございますが、それに加えて、今年に入りましてから新型コロナウイルス感染症という大きな課題とともに日々皆さん方もご苦労をされていることかと思っておりますけれども、観光のほうは、海外からのお客様はゼロという状況になっておりますし、国内からのお客様も、なかなか全国的にこの感染が収まらないという状況の中で、圏域の中での人の移動というようなこともこの1、2年は大きなテーマになってくると思っております。

また、今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大というようなことで、働き方あるい

は企業の事業の進め方というものにも大きな変革が起きている状況でございます。テレワークですとか、また逆に言うとワーケーションというようなことも含めて、北海道にとりましてもマイナス面ばかりではなくて、今後の取組としてプラスに働いてくるということも考えられるのではないかと考えているところでございます。

そういった中で、行政のさらなる効率化というような面も含めて、この連携中枢都市圏の中で一緒に取り組んでいくものをさらに進めていければと思っているところでございます。

本日は、限られた時間ではありますけれども、首長の皆様方から忌憚のないご意見を頂戴して、このさっぽろ圏域、北海道全体の発展のために私たちが何ができるかということについて議論を進めていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、次第に入ります前に配付資料の確認をさせていただきます。

本日お配りしておりますのは、次第、出席者名簿、座席表、それから、右肩に資料番号を記載しておりますが、資料1から6まで。そのほか、白い冊子となっておりますが、今年度改定いたしました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」を机上に配付させていただいております。

本日のご出席者皆様につきましては、大変恐縮でございますが、配付させていただきました出席者名簿をもちましてご紹介に代えさせていただきますたく存じます。

なお、南幌町長様は健康上の理由で辞任、職務代理である副町長様も公務の都合上、本日欠席となっております。ご報告申し上げます。

## 2 資料説明

○事務局（小西まちづくり政策局長）

それでは、まずは札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村から、資料に沿いまして、昨年度の事業の実施状況等や変更後の「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要、今後のスケジュールのほか、さっぽろ圏の今後の方向性等についてご説明をさせていただきます。

それでは、浅村部長、お願いいたします。

○事務局（浅村政策企画部長）

札幌市政策企画部長の浅村でございます。お配りした資料につきまして、順にご説明をさせていただきます。

まず初めに、資料1「さっぽろ連携中枢都市圏の推進体制に関する要綱」を御覧いただきたいと思っております。

本要綱は、第1条の末尾にございますとおり、さっぽろ圏の持続的な発展に寄与することを目的といたしまして本年7月に策定させていただいたものでございます。

第2条において本首長会議についても正式に位置づけさせていただいておりますので、この場を借りてご報告をさせていただきます。

次に、資料2、さっぽろ圏における昨年度の事業の実施状況等についてご説明をいたします。

冒頭にございますとおり、昨年度におきましては8割以上の指標において達成済み、または達成見込みとなっております。圏域形成初年度でございますけれども、順調なスタートを切ることができたものと考えております。

また、中段にございますとおり、達成済みの主な事業といたしましては、「連携した企業誘致の推進」や「新産業の育成に向けた支援」のほか、「地元定着等の促進」や「企業によるまちづくり活動の促進」などがございます。

具体的な事業実績について幾つかご紹介をさせていただきますと、企業誘致関連といたしましては、ご案内のとおり、昨年度から設備投資の促進に係る補助金、札幌市の事業ですけれども、この適用地域を従前の8市町から、岩見沢市と南幌町を加えまして圏域内10市町に拡大させていただいたほか、メッセナゴヤにおきまして、さっぽろ圏として共同出展を行っております。

また、新産業育成関連といたしまして、昨年度は小樽市さんや江別市さん、それから恵庭市さんの企業様に対しまして新製品、新技術開発のための補助をさせていただいたところがございます。このほか各種補助におきまして対象を圏域全体に拡大させていただいております。

さらに、地元定着関連といたしましては、仕事体験イベントに域内外の6,425名の高校生の参加や、シニア向けの体験付き仕事説明会「シニアワーキングさっぽろ」におきましては、石狩市さんや北広島市さんをはじめとする連携市町村の所在企業延べ11社様にご出展いただいているほか、今年1月には12市町村合同としては初となります首都圏における移住フェアを開催いたしまして、充実した都市機能を有するまちから新篠津村をはじめとする自然豊かなまちまで、さっぽろ圏が形成されたからこそできる多彩な魅力を一体となってPRをさせていただいたところでございます。

そのほか、本会議の後段で詳しくご紹介させていただきますけれども、昨年協定を締結いたしましたパートナー企業様と連携した取組といたしまして、長沼町さんや千歳市さんの特産品を活用した商品開発や、シニアの運転免許証の自主返納を支援する取組を圏域全体で展開をさせていただいているところでございます。

一方で、「遠隔会議システムの導入・活用」や「オープンデータプラットフォームの共同利用」など幾つかの指標におきましては達成がかなわなかったものがございますが、これらの事業につきましては現下の社会情勢におきましても必要性、重要性がより高まっていくものと考えておりますので、さらなる推進を図っていくことができると考えております。

最後に、下段にございます「3つの役割における重要業績評価指標」につきましては、

新型コロナウイルス感染症の影響等により今後さらなる悪化が見込まれることから、後ほどご説明いたします新たな取組も含めまして、現下の社会情勢に対応する取組の検討・実施などを行いまして、数値の悪化の緩和ないしは維持・向上に向け皆様のご協力を賜ればと考えております。

次に、本年4月に変更いたしました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要について、その変更点を中心に資料3でご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、前提といたしましては、圏域形成初年度であることから、圏域の中長期的な将来像や3つの重点施策などビジョンの根幹部分の変更はございませんが、資料1枚目の右側下段にありますとおり、重点策にひも付く各連携事業と持続可能な開発目標、いわゆるSDGsの17のゴールを結びつけることによりまして、より効果的に将来像の実現を目指すこととしております。

加えまして、今年度の連携事業といたしましては昨年度より7事業増加いたしまして、計47事業ございます。事業費見込額全体といたしましては昨年度より約9億円増加いたしまして、約52億円となっております。

続きまして、2枚目を御覧ください。

赤字で記載しておりますのが、今年度新たにビジョンに追加した事業でございます。今後の情勢等にもよりまして変動の可能性はございますが、現時点で想定している2020年度に加えさせていただいた取り組みを幾つかご紹介させていただきたいと思っております。

まず、資料左側、「創業の促進」といたしまして、行政や道内企業とスタートアップ企業が連携いたしました社会・企業課題の解決に取り組むプロジェクトや、後継者不在により廃業を検討している中小企業者と創業希望者等のマッチングに関する取組を行っておりますほか、先端技術の活用や生産性の向上といった昨今の社会において欠くことのできない視点も連携事業として新たに盛り込んでおります。

また、右側下段を御覧いただきまして、「札幌市東京事務所を活用した首都圏PR等の促進」といたしまして、首都圏におけるさっぽろ圏の情報発信機能の強化を行っていくほか、さっぽろ連携中枢都市圏の人材育成・確保に資する取組のために本年3月に「さっぽろ圏人材・育成確保基金」を新たに設置いたしまして、企業版ふるさと納税等を活用しながら、圏域全体を対象といたします奨学金返還支援などを含む「さっぽろ圏『ひとづくり』プロジェクト」を推進していく所存でございます。

次に、資料4に参りまして、さっぽろ圏における今年度のスケジュールについてご説明をしたいと思います。

今年度におきましても昨年度同様、本日の首長会議のほか、引き続き定期的な実務者会議やビジョンの有識者懇談会での議論等を踏まえながら、「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」について必要な変更を行ってまいりたいと考えております。

また、札幌市の庁内におきましても、副市長を筆頭といたします札幌市連携中枢都市圏推進本部を中心に、さっぽろ圏における取組を全庁的に推進いたしまして、連携中枢都市

としての役割を積極的に果たしていきたいと考えております。

次に、資料5に参ります。さっぽろ圏の今後の方向性についてご説明をしたいと思います。

冒頭に記載させていただいております、「『住みたくなる』『投資したくなる』『選ばれる』さっぽろ圏域」という将来像の実現については引き続き皆様のご協力を賜りながら目指していきたいと考えておりますが、その一方で、新型コロナウイルスの感染拡大を契機といたしました「新しい生活様式」の提唱など、社会情勢の変容をきっかけといたしまして3つの重点施策の柔軟な推進が求められているのではないかと考えております。

このような状況下における新たな課題やニーズといたしましては、中段にございますように、魅力・活力を維持・向上させていくことを前提といたしまして、投資や人材を呼び込むという視点もさることながら、圏域の住民や道民の方々を対象とした経済循環などを促していくことの重要性が増していると考えられますことや、休校措置や外出制限等の影響によりまして将来を担う人材に対する教育・体験機会が減少していること、さらには新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行政需要の増加等を契機といたしまして、より効率的なサービス提供が求められているといったことが挙げられると思います。

そこで、時代に即した重点施策の推進といたしまして、圏域内や道内の循環のさらなる活性化により、より魅力・活力があふれる圏域へ。子どもや若者の多様な教育・体験機会を確保し、将来を担う人材が育つ圏域へ。そして、厳しい経済・財政状況でも住民が安全・安心に充実した暮らしを送ることができる圏域へ、という3点を掲げまして、引き続き資料冒頭にごございます圏域の将来象の実現に向けた取組を行っていただければと考えております。

このような重点施策の柔軟な推進を行っていくほか、2040年問題にもより適切に対応していくために、ビジョンに掲載している47の連携事業以外に、今年度実施または実施予定の新たな取組について次の資料にて説明をさせていただきたいと思っております。

資料6を御覧ください。

まず、1番目といたしまして、域内循環の促進に関連いたしまして「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」でございます。これは、インバウンド需要の停滞が見込まれるウィズコロナにおきまして今後圏域や北海道における経済循環の重要性が増大するものと思われる中、さっぽろ圏内の住民や道民等を対象とした圏域の周遊活性化を促す取組が必要なのではないかという発想に基づくものでございます。こちらにつきましては、後ほど皆様より圏域内において取組を協議・推進していくことに関する賛否も含めましたご意見等を頂戴できればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

2番目といたしまして、将来を担う人材の教育・体験機会の減少に関連して「G I G Aスクール構想の実現に向けた課題共有等」でございます。昨今の情勢も反映されまして、国においてさらなる加速化が図られておりますG I G Aスクール構想でございますが、その推進に関しまして実務レベルによる各市町村における課題の共有やその解決に向けた情

報交換等を行っております。これは、大きな意味で、圏域ができたからこそ可能となった行政の効率化に資する取組の一つであると思っております。

3番目は、より効率的なサービス提供に関連いたしまして「自治体行政のスマート化に関する検討」を掲げております。これは、さっぽろ圏におきまして各行政手続の件数等の把握や、各市町村における事務フロー等の可視化といったものを行いまして、現状を明らかにしながら、費用対効果等も踏まえて行政サービスのオンライン化の推進や事務の共同処理等の実現可能性の検証を行っていきたいと考えております。

これらにつきましては、皆様の市町村内部での検討材料にさせていただくことができるようにすることはもちろん、国の動向も踏まえながら、圏域全体での取組の推進に資するよう鋭意調査を行い、共有させていただければと考えております。

こちらにつきましても後ほど皆様より、圏域内において検討を進めていくことの賛否も含めましてご意見等を頂戴できればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

このほか、主に2040年問題に関連する取組といたしまして、「シニアのさらなる活躍に向けた取組の検討」のほか、専門的な課題等に関しまして検討することを目的として実務者会議の下に「さっぽろ連携中枢都市圏タスクフォース」を設置することとしております。このタスクフォースにつきましては、昨年度の本会議における当別町の宮司町長様からのご示唆も踏まえまして、圏域内全市町村参加の下、生活面、観光面、両面からの圏域内の公共交通を検討課題といたしまして第1弾を立ち上げたものでございます。

そして、去る8月21日に第1回目の会議を開催いたしまして、各市町村の現状や課題等に関する情報共有を行った上で、今後も定期的に会議を開催しながら具体策の検討に向けた協議を行っていく所存でございます。

このように、さっぽろ圏は、ビジョンに掲載しております47の連携事業はもちろんのこと、時代や情勢の変化、連携市町村のニーズに応じまして柔軟かつ迅速に新たな取組も推進していくものでございます。

長くなりまして恐縮ですが、私からは以上でございます。

### 3 意見交換等

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、意見交換に入らせていただきたいと思います。

今回は、ただいまの説明にもございましたとおり、資料6におきましての協議事項として「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」及び「自治体行政のスマート化に関する検討」を挙げさせていただいておりますので、皆様のご意見を伺えればと思っております。

それでは、協議事項として挙げさせていただいております取組に対する賛否あるいはご意見のほか、各市町村におけます現状の課題、今後のさっぽろ圏に対するご期待等を含めましてご発言をいただければと存じます。

では、大変恐縮ではございますが、小樽市の迫市長から順に時計回りでご発言をお願い

したいと思います。

それでは、小樽市の迫市長、よろしくお願い申し上げます。

○小樽市（迫市長） 皆さん、こんにちは。小樽市長の迫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今、協議事項の2点についてということでお話がございましたけれども、まず最初の「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」についてでありますけれども、改めて、新型コロナウイルスを経験いたしますと、私ども小樽市にとりましても、ほかの自治体の皆さん方にとりましても本当にインバウンドに依存していた観光だなと感じております。

そうした中で、一定程度感染が落ち着いてきて、人の往来が激しくなってきた昨今を見ておりますと、この観光の在り方というのがかなり変わってきておりまして、1つには、完全に週末型、土曜・日曜が中心の観光になっておりますし、観光駐車場には大型バスが止まっている、こういう姿を見かけることがございませんので、本当に個人旅行といえますか、家族旅行、こういった形に変化をしてきているということでございます。インバウンドが再び道内に戻ってくるまでには、もう少し時間がかかるのではないかと。こういった中で、週末観光なり小規模旅行でどうしのいでいくかということを考えていかなければならない。まさに、ある意味、観光の在り方そのものも考えていかなければならと思っております。

そういった中で、200万人を超えるこの圏域の中で非常に多くの観光資源をお持ちになられている自治体の皆さん方がお集まりになっている中で、いかに周遊をしていくか。特に、住民にとりましては比較的近場の旅行地を探している中で、ここはまさに連携をしながら回遊性を高めていくという取組については、それぞれの自治体にとって大きなメリットがあるのではないかと考えております。

そうした中で、今回議題として挙げられております「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」につきましましては賛意を示させていただきたいと思っておりますし、しっかりと議論させていただきながら、圏域全体の魅力を内外にPRをして、圏域の発展につなげていければと。そういう思いでいるところでございます。

それから、協議事項の2つ目の「自治体行政のスマート化に関する検討」について少し意見を述べさせていただきたいと思っておりますけれども、これにつきましましては本市も財政の健全化に向けて取り組んでおりまして、様々な項目について検討を重ねておりますけれども、そういった中で業務委託の拡充につきましても検討項目になっておりまして、各自治体で共通する事務の委託などが可能で、共同処理することによりまして効率化が図られるのであれば、本市も参加を検討させていただきたいと考えているところでございます。まずは、各自治体での窓口業務などの処理状況や共同化した場合の効果などについて調査を行うということでございますので、協力をさせていただければと思っておりますのでございます。

これらの協議事項につきましても、先ほどのお話もございましたとおり、実務者会議等を通じて協議させていただければと考えているところでございます。

以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 迫市長、ありがとうございます。

次に、岩見沢市の松野市長様、よろしく願いいたします。

○岩見沢市（松野市長） 岩見沢市の松野でございます。会議の出席は今回初めてになります。前回ちょっと用務で出席ができませんでした。あらかじめご容赦ください。

結論から申し上げますと、2点ともに岩見沢市としては大賛成でございます。

まず、1点目の周遊観光も含めたポイントでございますが、まず岩見沢市の現状を申し上げますと、市内に道内で2つあるうちの1つの遊園地がございます。ただ、岩見沢市の観光は、観光人口としては道内の上位には入っておりますけれども、インバウンド観光はほとんどございません。周遊の中の、特に日帰り客が多い観光地域というような課題もございます。まさに周遊の活性化が課題となっているわけございまして、新たにウィズコロナの観光産業の激減でございます。観光産業は裾野も広く、多業種に与える影響が多い分だけ非常に大きなダメージを受けているというのも率直なところでございますが、さっぽろ圏を中心としたこの260万人という大変大きな魅力ある市場でもございますし、感染拡大の防止を徹底した上で、十分そのお互いのよさを知ること、あるいはそのような周遊が活性化することをまさに期待をしているところでございます。

また、それと併せて、現在タスクフォースでご検討いただいております公共交通の協議というのもまさに必要なことだと思っております。特に、市内の路線を運行していただいている例えばバス事業者との協議等々、生活交通対策につきましても、今後、連携中枢都市圏の市町村の皆様と情報交換などもできればと思っておりますので、この点はよろしく願いをいたしたいと思っております。

それから、スマート自治体あるいはデジタル自治体でございますが、岩見沢市はかねてその分野についてはいろいろ検討を進めてきておりました。具体的には、現在、庁舎の建て替え工事を進めておまして、新型コロナの最中でございますけれども、工事自体は大変順調に進んでおまして、来年の11月末に完成し、再来年の1月から供用開始をする予定です。その供用開始に合わせて、Society（ソサエティ）5.0における行政のサービスの在り方、あるいはサービスレベルをどう向上させていくか、利便性、快適性を含めてどのようにサービスを提供していくのか、実はその検討を進めてきたところでございます。そこに今度は新型コロナの影響で、さらに加速をしていかなければならないというのが大きな課題ございまして、札幌市さんが中心となってこの点に関する情報の共有やノウハウの蓄積が図られるというのは大変心強い限りでございます。

現在、国でも各システムの平準化あるいは共通仕様書の検討が進められておりますけれども、やはり一番のメリットは、そういうシステムを社会実装していく。特に行政の分野では、実装していくというのが大きな課題だと思っております。

当市といたしましては、ICTを軸とした、ICT環境をフル活用する、そういうまちづくりを進めてきた経緯もございます。また、これからの身近な課題ということでは、岩

見沢市は南空知という圏域に属しております。南空知は神奈川県並みの面積がありながら、人口が15万人を切っている。その中で8万人弱が岩見沢市ということで、人口ウエートは52、3%。これが、2040年に近づくに従って岩見沢市の人口も減ってまいります、圏域の人口も減る。ただし、ウエートはどんどん高くなっていく。

そういう状況下で行政サービスをしっかり提供していく、維持をしていくという観点で、実は定住自立圏の制度化といいますか、実施に向けて、今いろいろ関係方面と協議をしています。その大きなテーマの一つに、やはりスマート自治体、デジタル自治体というのがあると認識しておりますので、さっばろ連携中枢都市圏としての共同での取組を進めていく中で、そのプロセスはもちろん十分に参考にさせていただきたいと思っておりますし、いろいろなノウハウを勉強していきたいと。また、私どもでお役に立てるところがあれば十分に連携をさせていただきたいと考えておりますので、どうぞご理解とともに、よろしくお願いたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 松野市長、ありがとうございました。

次に、江別市の三好市長様、お願いたします。

○江別市（三好市長） 江別市の三好でございます。

さきほどのテーマ2点でございますが、いずれも私どもも参加し、一緒に進めていきたいという気持ちでございますので、よろしくお願いたします。

観光に関連し、私どもは一般的な「観光」という概念が余りございませんので、目指すものは周遊観光といいたいでしょうか、札幌市はじめ近隣の市町村さんと連携して、いろんな方に来ていただいて、交流をする観光ではないかと思っております。そのためにも、この周遊観光の仕組みづくりは極めて大事だと思っておりますので、ぜひ皆さんと一緒に進めてまいりたいと考えております。

もう1点が「自治体行政のスマート化に関する検討」ということであります。

国におきましては昨年12月にデジタル行政推進法が成立しました。これはマイナンバーを活用する様々な取組ということでもあります。また、これとは別に、全国市長会から提案されている様々な市町村の行政事務共通化を目指す取り組みについても、国が標準仕様を示す方向で検討を始めております。つまり、先ほどの法律と併せて各行政事務の標準化を国が検討することとなり、この圏域の中でどの仕様が必要なのか、さらに加えるべき仕様があるのか、そのような検討の実施は非常にタイムリーなのではないかと思っておりますので、ぜひこれを進めていただきたいと思います。

また、各市町村の行政事務や事業について、これを連携することによってさらに行政効率上がるということが明らかになれば、逆にこの圏域から国に提案しても良いのではないかとお願して、そういう意味でも、ぜひ連携して取り組んでいただきたいと思います。

もう1点は、ちょっとずれるかもしれませんが、この圏域の人口の問題、年齢構成の問題があります。先ほど2040年の問題がございましたけれども、全国と比較し、圏域へ転入

している方の年齢構成というのが私は気になっております。これは、私どもの市へ転入する方もそうですし、札幌市さんへ転入する方の年齢構成も同様です。

シニアの問題が先ほど出ておりましたけれども、転入するシニア層の方たちの今後の在り方といったこともこの圏域全体でも検討していく必要があるのではないかと。それは観光と行政のスマート化とは関係ないかもしれませんが、機会がありましたら検討すべき項目ではないかと思っておりますので、それも一言申し上げたいと思います。

以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 三好市長、ありがとうございました。

次に、千歳市の山口市長、お願い申し上げます。

○千歳市（山口市長） テーマになっております2つのことについては、ぜひ検討を始めたらいと思っていますので、その際は積極的に参画させていただきたいと思っています。

ちょっと話が軟らかくなって恐縮ですが、私、コロナの影響で、この半年近くは土日は余り行事がなくて、何をしようかということで非常に暇を持て余すときもあったのですが、今回お盆休みを活用して、実は管内の道の駅を全部回ることができました。かねてから1度行ってみたいなと思いつつも、なかなか行くことはできませんでした。お隣にはしょっちゅう行っていますし、近くは行っているのですが、今回は石狩に行きました。それから、当別に行きました。新篠津に行きました。これは、新たな発見をいたしました。この近くの中で、それぞれが特性を持ったまちづくりをしているといいながら、その道の駅は十分ではないにしても、そのまちの特徴が現れていたし、お土産一つ取っても特徴があるし、道の駅に併せて温泉があったり、いろんな個性を生かした道の駅があって、これは私にとっては大発見でありましたし、女房にも久しぶりに喜んでもらって、安くて、近くて済むのなら、これが一番いいなと思ったところであります。

このように、やっぱり圏域の中でまだまだ知らないところもあるし、掘り起こせば非常に魅力があると。逆に言うと、千歳では、私が気がつかないところを、外部の人が「いいところあったよ」と言ってくれるのです。そのことが新たな魅力の発見にもつながるし、こんなことが、私たちは当たり前だと思っていたけれども、ほかの人にしてみれば大きな魅力なのだなと考えさせられるというか、そういう発見もありまして、これは非常にいい機会だと思っています。

それから、スマート化は、今後、ウィズコロナということではなくて、デジタル経済、デジタル社会に対応するためにはどうしても進めなければなりません。ただ、課題もありますね。お金はかかるし、やろうと思ってもそんなに簡単にはできないし、機械や設備があればいいというものでもない。ですから、これは圏域の中で十分に検討しながら、お互いにどこで接点を持ってやるかということ構築するのは大変重要なことだと思っていますので、ぜひ進めてもらいたいと思っています。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 山口市長、ありがとうございました。

次に、恵庭市の原田市長様、お願いいたします。

○恵庭市（原田市長） 恵庭市の原田です。

この2つの案件については、ぜひ取り上げて、推進していただきたいと思っております。周遊観光の関係ですが、私ども観光振興計画というのを持っているのですが、そのメインのターゲットはインバウンドということではなしに、このさっぽろ圏の市民の方々に恵庭に来ていただくというようなことをもともと持っておりました。そういった意味では、圏域を周遊するというようなことは大賛成であります。

実は、「全国都市緑化北海道フェア」というのを令和4年、2022年の6月の終わりぐらいから1か月余り今考えておりますけれども、全国から多くの人たちに来ていただいて、恵庭をはじめたくさん公園あるいは花を、緑を楽しんでいただきたい。このように思っているところでありまして、そういった意味では、この圏域の公園、札幌でしたら滝野ずらん公園でありますとか、岩見沢のバラ園とか、それぞれのまちにたくさん公園がありますから、そういった公園を巡るツアーなども企画しながら、1日3つの公園、4つの公園を回るというようなこともできれば提案をしたいと思っております。

北海道の花というのは本当にきれいなのです。寒暖の差があるものですから、非常に色が美しいということで、本州は今ですと33度とか34度、38度の状況ですので、最高気温が20度も違うような、そんな北海道に来ていただいて、花を見ていただくということでありますが、その前に圏域の人たちに、この圏域の公園はどこがすばらしいのか、何がいいのかということを知っていただく、そんなことを提案したいと思っております。

次に、スマート化についてでありますけれども、これはどうしてもしなければならないことであります。2040年になれば公務員を確保することもできなくなるというような状況の中で、RPAあるいはAI、そういったものに取り組みなければ自治体行政が運営できないという状況に必ずなるわけでありまして、それらについて圏域として問題点を洗い直す。そういったようなことはとても必要だと思っております。

いろんな課題がありまして、まちの規模は違います、市役所の規模も違います。それに合った適正規模というのがあると思っておりますけれども、そういったものもパターン化しながら、どういう取り上げ方ができるのかというようなことも研究できるような、そんなことになればと。このように期待をしているところであります。

以上です。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 原田市長、ありがとうございました。

それでは、テーブル向かい側になりまして、北広島市の上野市長様、お願いいたします。

○北広島市（上野市長） 上野でございます。よろしくお願ひいたします。

この2つの案件につきましては、我々も同感でありますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

先日、京都から札幌市に移住をした方とお話をさせていただきました。北海道がよくて、札幌に移住をしたということでもあります。いろんな話をする中で、我々は京都には修学旅行でしか行ったことがないのですけれども、京都のほうが魅力がたくさんあるのではない

ですかと言ったのですけれども、いやいや、四季がはっきりしている、自然や景観、歴史だとか、北海道は素晴らしいところがあるということでありました。

1つは、やはり圏域でそれぞれの地域の方々に改めて圏域のよさを知ってもらうことが重要ではないかと思っております。私も、コロナの影響で例年と異なり、土日の公務が少なくなりました。3月からこの7月末まで、トレッキング、山歩きというか、散策をさせていただきまして、樽前山から始まりまして、藻岩山は十数回、裏から表から登山道がたくさんありますので行かせていただきまして、白旗山とか、最後、旭岳まで行きましたけれども、それぞれの市町村ですばらしいトレッキングコースがあるのではないかと思っております。そういうものとか自転車、食だとか、改めてそれぞれの自治体のよさをまずそれぞれの住民の方に知っていただいて、お互い交流をすることが非常に重要ではないかと思っております。

また、ICT関係につきましても、これからは恐らくすごいスピードで進んでいくのではないかと思っておりますが、これは我々1つの自治体だけで進めるというわけにはいかないとと思っております。事業費とか、その更新をどうするか、セキュリティをどうするか。やはり連携をしながら進むことが非常に重要ではないかと思っております。ぜひこれは進めていきたいと思っております。

以上であります。

○事務局（小西まちづくり政策局長）

上野市長、ありがとうございました。

それでは、石狩市の加藤市長様、よろしく願いいたします。

○石狩市（加藤市長）

石狩市の加藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私どもの自治体につきましても、協議事項の「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」、また「自治体行政のスマート化に関する検討」につきましても、札幌市さんを中心として積極的に議論に参加をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、1点目の周遊活性化の関係であります。私ども石狩市も、ご案内のように観光都市ではありません。しかしながら、一昨年オープンをした厚田の道の駅を中心に年間約200万の観光客の入込みがあります。厚田の道の駅につきましては、初年度の一昨年は60万人、昨年は40万人の入込み客であります。我々は、やはりこの2年目の40万人を目標に様々な形での事業展開を図っております。今年も、コロナウイルスの関係で一部休業した時期もあるのですが、徐々に暖かくなって、きちんとした感染対策を講じながら、多くの方に来ていただいております。山口市長、どうもありがとうございました。

そういう意味からいけば、私どもはやはり圏域内にある様々な集客施設を軸にした活性化、周遊化を図ることで来場者が地元の関係情報などを入手して、さらなる周遊につながることを期待しております。この圏域は、約260万人、北海道の2分の1を占める人口を有しております。そういう意味では、石狩管内の期成会でも要望しております337の泉郷道

路の一刻も早い完成が望まれるところではないかと思っております。

そういう観点からいけば、圏域自治体の皆さんと今後も連携を密にして取り組んでいければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、行政のスマート化に関する問題であります。これは大賛成であります。ただ、どこの自治体も恐らくお悩みになっているのは、この種の一元化、何か制度が変わるたびに、そのシステム改修にかかる費用、これが、いろいろな国の制度改正に伴って、きちんとした財源補填がないものですから、私どもも非常に苦勞をして、交付税の対象に入っているという部分で、なかなかまかなえていない部分が数多くあります。恐らく、これから実務者会議等でいろんな議論がされていく中で、共同事務作業をするときに、やはり最後は財源の問題に行き着くのではないかと。そこで何か圏域全体として有効な形を国等に要望して、特財をきちんと措置されるような形になれば、非常に好ましい形になるのではないかとと思っております。

私からは以上です。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 加藤市長、ありがとうございました。

それでは、当別町の増輪副町長、お願いいたします。

○当別町（増輪副町長） 当別町副町長の増輪でございます。

今日は宮司町長の代理で参りました。ただいま議題になっておりますこの2つの関係につきまして、特に公共交通、圏域の観光というようなところに関しましては、私どもの町長の発案というのでしょうか、グレーター札幌というような言葉を使っていると思いますが、これにつきましてタスクフォース等々もつくっていただきながら議論を進めていること、本当に感謝したいと思っております。

いずれにいたしましても、当別町といたしましては、この2つの課題に関してぜひ前向きに進めさせていただきたいと思っておりますのでございます。

圏域の周遊活性化に向けた取組につきましては、観光という部分になるのかもしれませんが、先日JR北海道が、高級観光列車を造っていただいて、70万円ぐらいの旅行費用になるのだそうですけれども、道内を巡るという観光がなされるようになったと。これはこれですばらしいことだと思っております。現在、コロナ禍での人の流れといった部分については、近距離、短時間、個人といった部分の移動というのが非常に大きいのではないかと思っています。

このような状況も含めまして、ターゲットやコンテンツをどうやってセットするのか、どうやって満足させていくのかというようなことが非常に重要だろうと思っておりますので、関係団体の皆様方の知恵を結集していただいて、ぜひコロナ禍での道内の経済発展のモデルケースになるように、この圏域の周遊といった部分を進めていただければと思っております。

もう一つ、自治体のスマート化につきましては皆様方と同じ意見でございますけれども、連携中枢都市圏を議論する部分においては、これは究極の課題だろうと思っております。

このことにつきましては、時代の流れから見ても、そう遠くない時期に国全体で物事を考えていかなければならないと捉えております。

行政サービスのオンライン化に関しましては、市町村の既存のシステムを入れ替えるということになるわけですが、ただいま石狩市長もおっしゃったように、最終的には費用の問題といった部分がどうしても出てくるのだろうと思っています。どのような行政サービスが一番いいのか、それに合っているのかという部分を考えつつ、いわゆる課題の整理をしていかなければならないわけですが、今回のコロナといった部分でも、日本国内のICT、IT等々の課題がクローズアップされました。どちらかという日本はそこが非常に後れているという意見も出ているような状況でございますので、早い段階でオンライン化という部分を含めて諸課題、費用負担を明確にしながら将来の行財政運営を考えていくという部分では、非常にいいタイミングではないかと思っていますところでもございます。

私からは以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 増輪副町長、ありがとうございました。

次に、新篠津村の石塚村長、お願いいたします。

○新篠津村（石塚村長） 新篠津の石塚です。よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

この2点の課題に関しまして、まず1点目の周遊活性化、これは観光におきましては、特に新篠津村は道外の観光客や外国人観光客は余り来ていませんので、さっぽろ圏を含めて近間の人に来てくれるというのが新篠津の観光の特徴であります。ですから、もともとそういうところをターゲットにしているものから、おかげさまで、今年はコロナがあつて、土日は特にキャンプ場が大変はやっております。土日になると駐車場が満杯になつて、入りきれないほど人が来て、路上駐車もあつて、地元住民からクレームが来ています。そういう意味では大変いいのですけれども、今年、実は石狩市さん、当別町さん、新篠津村、増毛町さんでサイクルツーリズムの協議会をつくつて、正式なマップができて、少し力を入れてやろうと思つたらこういうことがあつて、余りできませんでしたが、これも、特に石狩管内でも北石狩管内といいますか、この3市町村は観光客が多いところではありませんので、そういうことを利用してという考えがありましたので、これを圏域の中でお互いにするこゝとによって、サイクリングに関してはこれからいろんな意味で共通の活動ができるのではないかと考えております。

それと、先ほど山口市長がおっしゃつたように、新篠津の道の駅にも来てくれたということでもありますので、石狩管内の道の駅同士が連携しながらやるこゝとによって周遊活性化にもつながるのではないかと考えて、期待をしております。

それと、特に新篠津は冬はワカサギ釣りが盛況です。暖かいハウスの中で釣りができるのはいいのですけれども、こゝとしはコロナということはどうなるかわかりませんが、札幌市さんとか石狩市さんでもワカサギ釣りができますので、これも含めてうまく人が余り重ならないように連携しながらやるこゝとこれから必要になつてくるのではないかと考えて

おります。

次に、行政のスマート化ですが、今日集まっている市町村の中で一番人口が少なく、面積も小さい新篠津であります。今は3,000人ちょっと、もう3,000人を切るのではないかとこの瀬戸際に来ております。ということは、当然、役場も職員を減らさなければいけない状況になってきております。その中で、行政のスマート化というのは大分前から言われていたのですが、実際にはそれほど進んでいない状況だと感じております。特に、先ほど石狩市さんも言ったとおり、いろんなシステムを改修するとなると大きな費用もかかる、セキュリティの問題もあるということで、これらがきちんと解決できれば事務の共同処理というのはこれからこの圏域の中でもどんどん進めていくべきだと私も思っておりますし、できれば皆様各市町村の協力を得ながら一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 石塚村長、ありがとうございました。

それでは、長沼町の齋藤町長様、よろしくお願い致します。

○長沼町（齋藤町長） 長沼町の齋藤でございます。日頃から様々な形でご支援、ご協力を賜っておりますこと、御礼を申し上げたいと思います。

また、私、先週24日に長沼町長に就任をいたしましたところでございます。本会議につきましても初めての出席でございます。私自身も圏域の連携につきましては、その重要性を十分に理解しているところでございます。これからも何とぞよろしくお願いいたしたいと思っております。

まず、「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」についてでございますけれども、やはり皆さん同様に、コロナ禍ということで、インバウンドも含めまして観光については非常に厳しい状況だと思っております。そんな中で、自宅から1時間ほどの距離で地元の方が近場で過ごす、そういったスタイルであるマイクロツーリズムが注目をされてきているのはご承知のとおりだと思います。周遊活性化の取組については、そういったニーズにも合うものと思っておりますし、今後ともぜひ協議していただくことが必要だと思っております。

また、コロナの影響もありまして観光業は非常に厳しい状況でありますけれども、アウトドアレジャーなどの需要は高まっているものもあって思っております。先ほどお話も出ておりましたけれども、さっぽろ圏につきましてはすばらしい公園もたくさんあり、サイクリングやハイキング、スポーツ施設など、アウトドアレジャーを楽しめる環境も十分に整っていると思っております。近場にいましても、まだまだ知られていないものもたくさんあるということで、そういった資源を再発見して、地域内観光を推進することで、地域を深く知るきっかけづくりにもなるかと思っておりますのでございます。

次に、自治体行政のスマート化についてでございますけれども、皆さんからお話もございましたとおり、このコロナ禍で、やはりその後れというものが指摘をされているところでもございますし、これを実現できれば人的にも財政的にも負担を軽減できる。また、そ

れによって効果的、効率的な行政サービスにもつながるものと思います。この検討を進めることは大変有意義なものと思えますし、進めていただくことについては賛成の立場でございます。

さらに、ちょっと話がそれますけれども、このさっぽろ連携中枢都市圏の取組で本町が大きく期待をしているところでございますけれども、農産物を使った新たな商品開発支援、そういったブランド化の確立。また、それに関連しまして連携した形での企業誘致の推進にも大きく期待をしているところでもございまして、圏域の皆様のご協力、また推進を何とぞよろしくお願い申し上げたいと思います。

以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 齋藤町長、ありがとうございます。

これまでの間、皆様から圏域の周遊活性化に関する事、そして行政のスマート化に関する事を中心にご意見、ご見解を賜ったところでございますが、この機会ですので、その他の案件を含めましてご発言があればと思いますが、いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、本日のこれまでの意見交換全体を通しまして、秋元札幌市長より発言をお願いしたいと思います。

○札幌市（秋元市長） いろいろと貴重なご意見、ありがとうございます。

今日の意見交換では、圏域の周遊活性化に向けた取組、それから行政のスマート化ということに少しスポットを当てた議論をいただいたところでもあります。基本的な方向性、これを具体的に検討を進めていきたいと思いますということについては皆様ご了解いただけたものと思っておりますので、引き続き具体的な内容について実務者会議の場などで進めていければと思っております。

周遊の関係で申しますと、今日もいろいろお話がありましたように、やはり域内には大変すばらしい道の駅があって、それぞれの自治体の特産物や食ということも含めてすばらしいものがありまして、現在でもかなり札幌の人が行っているという状況にありますが、今年はコロナの関係があって、5月の連休などについては施設自体は閉めているというような状況もあったかと思いますが、7月以降、北海道内は感染のほうも他地域に比べますと比較的収まっているという状況もあるので、人の動きが少し出てきて、移動される方も出てきたかと思えますけれども、まだまだ知らない方も多いのではないかと思いますし、新しい道の駅もできています。そういった面も含めて、公園やキャンプ場などもすばらしいものがたくさんありますので、改めて地域の魅力を多くの方に知っていただいて、動いてもらうということが重要だと思うのです。

一方で、実は今年8月、札幌市内の施設を無料化して、市民に行ってもらおうという取組をしました。大倉山や藻岩山に初めて行った、あるいはテレビ塔に初めて上ったという人も結構多かったのですが、対前年比で1.5倍から2倍というような、大変混雑しているような状況がありました。そういう意味では、先ほどもお話ししましたがけれど、やはり土日

に集中するということが出てくると思いますので、平日を含めた平準化というようなことも1つ課題になるのではないかと思います。

あと、冬場はどうしてもなかなか魅力がないのですが、先ほどありましたように新篠津さんのワカサギ釣りとか、そういった冬場での楽しみもあって、四季折々、季節ごとの情報発信のようなものもまとめていければいいのではないかと思います。

現実的には、ここ1、2年は札幌などでは海外からのお客様というのはなかなか厳しいと思いますので、市民の皆さんにも北海道内、近郊の魅力を知っていただく。そういう情報発信の検討ができればと思っています。

行政のスマート化については、先ほど来、各首長様からもお話がありましたように、国でもこの標準化ということ。行政システム、共通システムですので、私どもも指定都市の市長会でも、やはり統一的な仕様やシステムは国のほうで検討してほしいということを強く言ってきています。最終的にはクラウド化をして利用していくというような形にすることで、今ですと各自治体がい러んな制度が変わるたび、特に福祉系ですと改修で大変な苦勞をしていますので、そういったことは共通化してほしい。税とか福祉の分野、これは強く言っていますので、国のほうに強く求めていきたいと思っています。

一方で、共通システムということではなく、いろいろな行政システムというところまで行かなくても、共有化できるようなことについても検討を進めて、まずはどういうことができるのか、どういう形、できるところから始めていくというようなことも含めて事務的に研究調査を進めていく必要があるかと思いますし、これは急がなければいけない事柄だとも思っておりますので、皆さん方のご協力をいただきながら積極的に推進をさせていただきたいと思っておりますのでございまして、この2点につきましては先ほど来各首長さんからのお話で基本的な方向性はご了解いただいたということがございますので、具体的なところを実務者会議、タスクフォースなどで議論をさせていただければと思っております。

○事務局（小西まちづくり政策局長）　ありがとうございます。

それでは、「圏域の周遊活性化に向けた取組の推進」及び「自治体行政のスマート化に関する検討」をこの圏域として推進していくということで、本会議のご了解をいただきました。

ここで、本日オブザーバーとしてお越しいただいております北海道の佐々木地域振興監より、本日の議論を通してのご感想等をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

○北海道（佐々木地域振興監）　ただいまご紹介いただきました北海道総合政策部地域振興監の佐々木でございます。本日この「さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議」にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。

また、日頃より道行政の推進に当たりまして特段のご理解、ご協力を賜っておりますことに御礼申し上げます。

また、今般、新型コロナウイルスの関係で感染拡大防止、さらには各地域の経済対策に多大なご尽力をいただいていることに感謝申し上げる次第でございます。引き続き私どもといたしましても「新北海道スタイル」の実践等を通じまして感染拡大防止等に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今いろいろとご議論を聞かせていただきました。私どもとしましても、人口減少、さらには様々な事案がある中で持続的な行政サービスを維持していくためには、やはり広域的な連携というのは非常に重要な問題であると。そして、特にこのさっぽろ連携中枢都市圏は250万以上の方々がいる圏域ということで、取組の中身というのは本道においても様々な意味で大きな影響がある。そういう意味では、私ども北海道としてもしっかりといろいろな形でご協力をさせていただかなければいけないと今日改めて感じた次第でございます。

具体的にどういうポイントで我々はお付き合いをさせていただくべきなのか。本日の議題にもございました圏域内は当然でございますけれども、この圏域とそうでない地域との連携ということもこれから多分大事になっていくではないか。この圏域とそれ以外の地域を結ぶ、そういう意味では私ども北海道、振興局が中心になりながらいろいろと連携をさせていただかなければいけない。

もう1つは、この圏域の中での優良事例というもの、これは私どももしっかりと受け止めさせていただいて、それぞれの中核都市等で同じような展開をさせていただく。この結びと広がりというものを私どもしっかりと意識をしながらお付き合いをさせていただかなければいけないと思っているところでございます。

本日いろいろな周遊活性化のお話が出ていたので、最後に1つだけ北海道からもちよつと宣伝をさせていただきますけれど、これはあくまで振興局範囲ということでございますが、ふるさとの魅力の再発見ということでスマートフォンを通じたスタンプラリーをやらせていただいております。それぞれの自治体の皆様方から「ここは」という場所を選定していただき、さらには地域のそれぞれの特産品が抽選で当たるような仕掛けになっております。また、奥様もご一緒いただければ、いろんな景品が当たるので大喜びされるのではないかと思いますので、ぜひ試していただければと思います。

最後になりますけれども、さっぽろ連携中枢都市圏の一層のご発展、そして本日ご参加の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、私からの発言とさせていただきます。

どうもありがとうございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

#### 4 閉 会

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、首長会議の閉会に当たりまして、秋元札幌市長から閉会のご挨拶をさせていただきます。

○札幌市（秋元市長）今日は、ありがとうございます。

また、今お話をいただきました佐々木地域振興監にはオブザーバーとして参加をいただ

きまして、ありがとうございます。

非常に多くの人口を抱えるさっぽろ連携中枢都市圏であります。その地域ごとの魅力をさらに高めていく取組が一層重要になってくると思っております。

年に1度ということでもありますけれども、トップの皆さんにお集まりをいただいて議論をさせていただく機会、これを継続していきたいと思っておりますし、今日この後、連携協定を結んでいただいている企業の皆様との意見交換もでございます。我々行政サイドでのいろいろな情報共有、連携ということはもちろんであります。私ども行政だけで進めていけないことも多々ありまして、そういう意味では北海道の中で地域に根差して企業活動、社会貢献をされている企業様がたくさんございます。そういった企業の皆様とも連携をさせていただきながら、北海道の魅力を高めていければと思っております。

このウィズコロナ、アフターコロナという状況の中で、首都圏などとの関係で見ますと、また新たな関係性というような事柄も出てこようかと思えます。先ほど移住のお話もございましたけれども、今まではどちらかという若い人が道外に転出をするという状況が札幌でもございました。若年層の転出に何とか歯止めをかけていくということが重要な課題ではありましたが、逆に、これから北海道、さっぽろ圏というようなことで、札幌の都市機能だけではなくて、周辺の自治体が持っている自然、あるいは食、農業というようなことも含めて魅力をセットで発信をしていくことができるのではないかと感じているところでございますので、引き続きこのような形で意見交換、そして実務者会議、タスクフォースでの議論も積極的に進めていただくようお願いをしたいと思います。

昨年この連携中枢都市圏ができて、1年余り経過をしてということでございますけれども、また新たな発展に向けて皆様方と力を合わせて進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお申し上げます。

今日は、ありがとうございました。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。